

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で20ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 1 —  
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

1 翻訳文学とは何であるのか。外国文学が翻訳されれば、それがただちに翻訳文学と化すわけではない。海外の文学が翻訳されて日本人読者に供される。それが、日本文学とまったく同じようにはないにしても、やはり「文学」として読まれ、「文学」として流通していく。まずこれが、翻訳文学の満たすべき第一条件である。さらに翻訳文学という語感には、そうして「文学」として読まれた海外文学が、日本の文学や文化に、さらには日本語表現に確かな波動を及ぼして、時にそれらの流れや仕組みを変えるような影響力を発揮することへの、予感や期待のごときものもまた含まれているだろう。このように、「文学」として認知され、読まれ、日本文学の流れの中に取りこまれ、それを書き換える可能性を秘めたものを、本書では翻訳文学と呼ぶわけである。

明治維新によって急速な近代化を強いられた日本にとって、翻訳とは、西洋文明に学び、その成果を取り入れて近代国家の骨格を整えるために必要な、国家的事業とさえ言えた。その際に採用されたのは、明治以前に中国文学を翻訳移入したのと同様の方法であった。明治半ばにかけて、国字や国語をめぐる改良論が取り交わされ、英語の国語化、漢字廃止論、ローマ字採用、日本語表記の表音文字化などが喧しく議論された。だが最終的に明治国家は、漢文読み下し文と和文の二重構造からなる日本語で欧文を翻訳していくことで、西欧最新の学識と知識を移入していく道を選び取ったのである。こうして翻訳文献は、近代日本の文学・文化が、西欧近代のそれと切り結んできた諸関係の痕跡をたどる、格好のフィールドワークの場となった。翻訳文学もまた、その例外ではない。かくして翻訳文学研究はわが国の比較文学研究において長らく特権的とさえ言える地位を占めて、今日に至っているのである。

翻訳文学はまず第一に、日本人読者と外国文学とを結ぶ、最も太くかつ重要な回路であった。翻訳文学の体系的な考察を抜きにして、ある外国作家およびその作品が、日本でいかなる運命をたどり、日本近現代文学にいかなる影響を与えたのかを究明することはまず不可能である。

翻訳文学は第二に、「今日当然書かれていなければならぬ文学作品を、言わば翻訳という形で示したもの」(大山定一・吉川幸

次郎『落中書問』、秋田屋、一九四六年」として、A 役割を担うべきものとしてあった。翻訳文学は同時代の日本文学に、それまで供給されなかつた主題や素材をふんだんに提供するとともに、日本文学いや日本にはいまだ根付いていない新しい感性や、新たなものの見方を導入し、新ジャンルや新概念を創出する、有効な B として機能していったのである。

翻訳文学は第三に、訳語という形で日本語に新たな語彙をもたらし、言文一致運動の推進力の一つとなるとともに、小説や詩の新文体創成に深く関与していった。西欧の言語表現を受け入れ、日本語の文章の内に取り込んでいく過程で、翻訳文学は自国語の可能性を押し広げ、その限界に挑戦し、新たな表現や文体の発生を促して、日本語、日本文学、日本文化に生命と活力を与え続けてきたのである。翻訳文学が近代日本にもたらした可能性の多くが、実は、欧文をその構造をまったく異にする日本語に移し変える過程で避けがたく生じる「差異」や「ずれ」が、日本語の既成の枠組みを激しく揺さぶることの効果として生じたものである点も見逃すべきではない。

今日、翻訳文学を含む翻訳の研究全般において、世界中で隆盛を誇っているのは、翻訳学(translation studies)という学際的な学問領域である。translation studies の translation ももちろんそうだが、世界で翻訳が論じられる際に使われる translation (あるいはそれに相当するそれぞれの外国語)は、日本語の「翻訳」よりは、かなり幅の広い語義をもつ。日本語の「翻訳」が二言語間の変換行為とはほぼ同義であるのに対して、translation のほうは多くの場合、社会や文化やコミュニケーションの根底にあつてそれらを司るものを、日本語の「翻訳」よりは上位にある概念を指す。それは、「他者」の言語や文化を読解・解釈し、それを自言語や自文化に変換し再構成していく、操作や過程の全般を含む概念なのである。

そのような translation を研究する翻訳学は必然的に、グローバルリズム、多文化主義の進行する世界の中で、「他者」の理解と解釈の可能性と方向性を指し示す学問分野となる。翻訳学が成立した一九七〇年代半ば、その拠点の一つがイスラエルであつたことから察せられるように、それは発生学的に、そして本質的に、マイノリティへの視線、マイノリティの側からの発信を基調とする学問領域であつた。

翻訳学は、言語や文化の壁を越えて「等価性」(equivalence)がいかに成立するか否か、成立するならそれはいかなる条件下に

においてあるかを探ることをその基本的テーマとする。すなわち、原文とその翻訳とが、形こそ変われ、等しい価値を持つか持たないかを、そこで作用している規範や法則や条件ともども、考察の対象とするのである。翻訳文学研究もまた、外国文学がいかに自国語において等価のものに移し換えられているか、つまり、外国語文学が、ただの「文学」の翻訳ではなくして、C たり得ているか否かを検証しようとする。もちろん、「等価性」とは、特定の時代や空間や文化の構造と無縁に成立するものではないから、翻訳文学が原典の「文学」と等価なものであるかどうかを考えていく上では、原文と翻訳テキストとを取り囲む文化システム双方に対する十分な目配りが欠かせない。こうして、文学、文化、歴史、言語のシステムの内に、確立されたシステムに革新と変化をもたらす潜在力をもつたものとして位置づけられてはじめて、翻訳文学は翻訳研究、比較文学・比較文化研究の学問的考察の対象となるのである。

\* ロマン・ヤコブソンは、異言語に変換され形が変化しても、なお等価性が成立することを、翻訳における最も根本的なテーゼであると考えた（「翻訳の言語学的側面について」、一九五九年）。等価性の成立要件は、もちろん、時代や社会や文化など、原文および翻訳テキストの外部にのみ求められるものではない。翻訳者が原文を読解し、解釈し、自言語で再現したものを、読者が読み、解釈する。そうした言うなれば内在的な認識・解釈の過程もまた、十分に考慮に入れなくてはならないのである。（ア）

たとえば、アメリカ文学の古典、マーク・トウエン『ハックルベリー・フィンの冒険』などは、その自由闊達で奔放な語り口調や、ほら話的なユーモアの魅力が、言語・文化の壁に遮られて伝わりにくい——つまり、日本語に翻訳するに際して等価性が成立しにくい——作品の一つの典型であろう。これがヘミングウェイの短篇作品なら、その独特の文体がシヨウヘキ<sup>3</sup>になって、ただそれを愚直に直訳しただけでは、なかなか文学作品と呼ぶにふさわしい文体にはなってくれない。だが、翻訳の過程でその真価が大幅に損なわれたはずであるにもかかわらず、『ハックルベリー・フィンの冒険』やヘミングウェイ短篇は、わが国の外国文学受容史の中で確固たる位置を占め、日本近現代文学に有形無形の持続的な効力を発揮し続けてきたのである。そうした事實は、主題やヒーロー像の魅力だけで説明し尽くせるものでは、おそらくないだろう。トウエンやヘミングウェイのテキストそれぞれの基底に、言うなれば、言語・文化の壁を越えて作用する、「創造的な核」のようなものが秘められていて、そうした創造

性の振幅が翻訳のペールを通り越して伝わり、異なる言語・文化を共振させたからだ。そんな風には考えてみることはできないだろうか。(イ)

ここで仮に「創造的な核」と名付けてみたものが原文テキスト内に現れるとき、それは含蓄に富んだ、多様な解釈を許容する表現という形をとるだろう。もちろん、言語化されぬまま、それが原文テキストの空隙くうげくや沈黙としてどまつている場合もある。どちらにしても、それを翻訳することは困難を極めるだろうし、かりに翻訳できたとしても、訳語や訳文が一義的に決定されるとはまず考えにくい。原文のこうした箇所に、解釈の幅を残さぬような訳文を与えてしまうことは、<sup>4</sup>むしろ誤訳とさえ言える。

もちろん原文の難所は、それを母語とする読者といえども、容易に解読したり、その意味するところを言い当てたりできるものではない。そうした解釈も翻訳も困難な原文の難所については、翻訳を重ね、他言語でもって繰り返しながらいくことくらいしか、その核心に接近していく手立てはないのかもしれない。少なくとも、原文の解釈困難な箇所を、単一言語の枠内に留めることなく、複数言語に向けて開いていくことが、有効な接近手段の一つであることだけは間違いないだろう。原文の「創造的な核」が——あるいはテキストの空隙や沈黙が——異なる言語・文化に共振を引き起こすとしたら、それはまさにこういう<sup>5</sup>な回路を介してでしかない。優れた文学作品はこうして様々に解釈され、多様な言語に翻訳され、読み継がれていく。そうしてその「死後の生」を豊かにし、さらなる成熟を遂げていくのである。(ウ)

翻訳文学とグローバリズムとの関係を考えていく上で、あらためてその重みを増しているのは、世界文学という概念である。今日、すべての日本現代文学は、執筆される時点ですでに、それが翻訳される可能性を、すなわち翻訳されて世界文学市場に並ぶ可能性を内包していると考えられる。現代日本作家は誰もが、程度の差こそあれ、グローバルな世界文学空間に接続しているという意識のもとで筆を進めているはずである。作家のそうした構えは、主題の選択、人物設定から、おそらくはその文体にまで及ぶ。「翻訳される可能性」と、そうした意識、構えとは、表裏一体のものとして、互いに支え合うものとしてあるはずである。実際にその作品のうちに、村上春樹のように世界各国で翻訳されるのか否かは、差し当たって問題ではない。(エ)

比較文学・比較文化研究という学問は、同一事象の切り取り方や経験の仕方は、各言語文化共同体それぞれで異なるという言

語文化相対主義的立場を、基本的には拠り所としてきた。その分析手法としては、原文による緻密な読解を通して、テキスト固有の価値と豊かさを味わうという、伝統的な精読の方法を固持し続けてきた。そうした基本姿勢からすれば、翻訳を介して世界文学市場に流通する文学商品のイメージや実態が、非本質的なものとして、ともすれば視野の埒外らちがわに置かれてしまうのもやむを得ないことではある。だが今や比較文学は、\*デイヴィッド・ダムロッシュの主張するように(『世界文学とは何か?』、二〇〇三年)、翻訳を通して失われるものではなく、むしろその過程で獲得されるもののほうに、あらためて積極的に向き合う必要があるのではなからうか。原典と翻訳との間の距離やせめぎ合いをテキストに即してしかと検証しつつも、翻訳文学を介して世界文学の多様性に参画することの、魅力に満ちた可能性のほうにも、同時に目を向けるべきであるように思われるのである。(才)

(井上健「序にかえて―翻訳文学への視界―」による)

\*ロマン・ヤコブソンロシヤ生まれのアメリカの言語学者。

\*マーク・トウエーンアメリカの小説家。

\*ヘミングウェイアメリカの小説家。

\*デイヴィッド・ダムロッシュアメリカの文学者。

問一 傍線部1「翻訳文学とは何であるのか」とあるが、筆者が考える翻訳文学の特徴に当てはまらないものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 自国の文学(日本文学)に一定の影響を与え得る。
- ② 国字や国語の改良論の議論を喚起し得る。
- ③ 自国の言語(日本語)に新しい表現や文体をもたらし得る。
- ④ それ自体が一つの「文学」として認識され得る。
- ⑤ 日本人読者と外国文学をつなぐ回路となり得る。

問二 空欄 A に入るものとして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

- ① 日本の近代化を力強く推し進める
- ② 西欧の最新動向を幅広く紹介する
- ③ 成長途上の自国文学の空隙をしばし埋める
- ④ 西欧文学における欠陥を補う
- ⑤ 自国文学を創作する際の手本となる

問三 空欄 B に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 触媒
- ② 比喩
- ③ 文体
- ④ 論理
- ⑤ 理念

問四 傍線部2の指示語「それ」の指示対象として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 日本語の「翻訳」
- ② 翻訳文学
- ③ 翻訳学
- ④ translation
- ⑤ 社会や文化やコミュニケーションの根底

問五 空欄 C に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 変換行為
- ② 日本文学
- ③ 翻訳文学
- ④ 翻訳研究
- ⑤ 比較文学

問六 二重傍線部3「シヨウヘキ」を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。

問七 傍線部4「むしろ誤訳とさえ言える」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **6**。

- ① 自国の言葉では説明不可能な概念を使って表現されている箇所であるから。
- ② 直訳せず意識を施すことは、原文の正確な解釈を阻害するものであるから。
- ③ ヒーロー像の特異性やユーモアな語り口が際立っている箇所であるから。
- ④ 言語や文化ごとで解釈のされ方が大きく異なり得る箇所であるから。
- ⑤ 含蓄に富み、本来的に様々な解釈が許容され得る箇所であるから。

問八 空欄 **D** に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **7**。

- ① 等価的
- ② 再帰的
- ③ 恣意的
- ④ 論理的
- ⑤ 単一的

問九 傍線部5「死後の生」が表す内容として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **8**。

- ① 作者が残した遺稿の文学的価値を高めるために翻訳を積み重ねていくこと。
- ② 様々な解釈のもとで、多様な言語に翻訳され、多くの人に享受されていくこと。
- ③ 市場に広く流通させることで作品の商品的な価値のみを高めていくこと。
- ④ 解釈に困難をきたす原文の難所に、あえて解釈の幅を残すように翻訳すること。
- ⑤ 多様な言語の母語話者達の意見を参考にして、理想的な翻訳を作り上げていくこと。

問十 次の一文は、本文中の(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)のいずれかの箇所に入るものである。この一文が入る最適な箇所を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **9**。

異なる文化や言語の内に移植され、読まれ、新たな作品を生み出す契機になるという予見や可能性とまったく無縁の地平では、もはや文学の創作もそうした創作の研究も存立しえなくなっている、という点こそが肝心なのである。

- ① (ア)
- ② (イ)
- ③ (ウ)
- ④ (エ)
- ⑤ (オ)



二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

いかに思ひそめけるにか、初瀬の観音を頼みたてまつりて、朝ごとに香花を供養しなど侍りしを、なべて神仏もうらめしく思ひし世に、捨て果てきこえしかど、さてもあらず、願などたておく事あれど、はるけき道に、<sup>1</sup>すがすがしくも思ひたれず、年月を送るほどに、貞和三年正月に、夢想のことあるに驚きて、忍びつつぞ思ひ立ち侍る。

睦月の二十八日に都を発ちて、その夜は奈良に泊まる。鹿の御宿を師俊詣で、大明神の御心ざし、<sup>2</sup>はたわざともあれば、御幣などたてまつる。東北院より御酒など賜はず。暁、まだ暗きほどに宮巡りに出でて、大宮の御前に念誦するに、山際いささか白みそめて、人の気配もまだみえず。いと静かなるに、昔をかけて思ひつづくる事あるにも、さすが捨て果てさせ給ふにやと、頼みをぞかけきこえける。

神や知る引く注連繩のうちはへて一筋にのみ頼む心を

\* 五重唯識のみどりの簾、<sup>\*</sup>二空真如の露をたれたる百法明門の朱の斎垣、<sup>\*</sup>随喜の思ひも深く、<sup>3</sup>立ちうき御名残なれど、急ぐべき道なれば、明け果てぬほどにと参り巡りつつ、はるばると起きぬ。檜破籠など設け侍る所にて見れば、田の面遙かなる東に山ありて、二本の杉立てるに、輪を三つかけたる、これぞ名に古りぬる三輪山と聞くもいと珍し。

詣で着きぬるに、御堂のけしき、所のさまなど、なべてならずぞ侍りける。宿にうち休みぬるに、眺めの末のいと見所ありてをかし。<sup>4</sup>行き来定めぬ夕べの雲、ただこもとにみなされつつ、檜原に響く入相もあはれ深くぞ聞きなされける。局しつらひぬれば御前に参りぬ。縁日として人あまた参り集りつつ、耳かしがまし。年ごろ持ちたてまつれる本尊を中尊として三十三体をつくり、供養し侍るを、ことさらこの寺にて供養すべく思ひ給へしその心ざしをぞ遂げぬる。過ぎにしころより家門のこと、わづらはしき子細ども侍るうへ、おほかた代々の流れ、久しかるべき安全を思ひし心ざしなるべし。

\* 観音の利生方便はことなるうへ、この山の靈地世に勝れて、一度もこの地を踏むものあらば、長く三悪道に落つべからずなどぞ申し侍る。御足に踏ませ給ふなる瑪瑙の石は天竺国、<sup>\*</sup>補陀落山、この山、<sup>\*</sup>三界の中に三所にのみありと申し伝へたるはまこと

にや侍るらん。濟度利生のむなしからざる事いにしへにふり、今に流れて初瀬川の音絶えず。大慈大悲の深き色は八染の岡の木々に染めても、なほたとへとするに及ばざるにや。現世なほ頼みあり、

B

出離解脱の方便いと頼もしかるべし。

騒がしかりつる人音も聞こえず、仏前更け静まりて、御灯の光も幽かにて、伴へる人々も寄り伏しぬれば、一心も収れるに、雨さへいとしめやかにぞ降り出でぬる。暁がたには少しをやみつ、檜原を払ふ峰の嵐、いとすごう聞こゆ。明けぬるになほ雨うち注げば、あはたたしながら見巡りつつ、北野の天神の跡垂れましますなる与喜の御社に詣づるに、音に聞きわたりし初瀬川、げにいとおどろおどろしく、岩きり落ちつつ麓を巡れる。山には花よりほかの梢もなし。八染の岡には、紅葉ならでは交じる木も見えず。春秋の色おのが山々に分きける心も珍し。

如月の朔日また奈良に泊まり侍りて、二日ぞ都に赴く。一重なる桜どもここかしこの垣根に咲き乱れつつ、げにやぶしわかぬ春の光にや、それとなき木の芽も恵みにもれぬ色は、数ならぬ身の頼みかときへ見たさる。昔、氏光春宮の宮使にて、春日祭に向かひ侍りしに、二位殿、わが身道連れにて参れりしも、この如月ならんかしと思ひ出でらる。

宇治のわたりに、いとあやしき事なんありとて、その夜にはかに俊禅僧正が坊に泊まる。いみじう経営し騒ぎつつ、小余綾の肴求むとて急ぎありく。ほどなく聞こゆ。暁はとく発つべきを、僧正出でゐつつ、をのこどもに、御酒など勧めつつ、古りにし世語りに移しつつ、朝日山の日影も遙かにさしのほりぬ。木幡山越え、なほ怖畏あるべしとて、美豆の御牧の方へ伝ふ。そのわたりに設けのことなどあれば、少し休みつつ都には赴きける。

〔竹むきが記〕による

\*鹿の御宿 || 鹿の住む園。

\*五重唯識 || 五重唯識の教えを伝える興福寺のこと。

\*二空真如の露をたれる百法明門 || 春日神社のこと。

\*利生方便 || 衆生に利益を与える手段。

\*三界 || この全世界。

\*濟度利生 || 衆生の苦しみを救おうとする仏の志。

\*大慈大悲 || 広大無辺な仏の慈悲。

\*八染の岡 || 初瀬寺付近の岡。

\*出離解脱の方便 || 俗世から離れて悟りの境地に入る方便。

\*小余綾の || 「急ぐ」の「い」に掛かる枕詞。ここでは急いで用意するの意を導き出す。

問一 傍線部「さすがにしくも思ひたれず」とあるが、それはどうしてか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマーク

せよ。解答欄番号は 10。

- ① 初瀬のような遠い神仏への信仰は捨て去ってしまったから。
- ② 願をかけてみたものの、それが成就したかどうかを知ることが不安だから。
- ③ 初瀬までは遠い上に、世を忍んで供養しなければならぬとされているから。
- ④ 一時期、神仏に対してわだかまりをもったこともあり、また、初瀬までは遠いことから。
- ⑤ かつては朝ごとに供養していたものの、初瀬は遠くその甲斐があるかどうか分からないから。

問二 傍線部2「はたわざともあれば」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

11。

- ① もしかすると故意に扱われるものでもあるので。
- ② やはりわざとらしいものでもあるので。
- ③ もしかすると巧みなものでもあるので。
- ④ はた目にもわざとらしい雰囲気でもあるので。
- ⑤ やはりことさらなものでもあるので。

問三 空欄 A に助動詞「まし」を適切に活用させて記しなさい。解答用紙(その2)を使用。

問四 傍線部3「立ちうき御名残なれど」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

12。

- ① 立ち去りがたく名残惜しくはあるが。
- ② うきうきと出立したものの名残惜しく。
- ③ 出立した後に名残を感じないのはつらいことだが。
- ④ 立ち止まっているのはつらいので、名残惜しくはあるが。
- ⑤ 安易な気持ちで立っているのは名残を惜しんでいるようにみえるものの。

問五 傍線部4「行き来定めぬ夕べの雲、ただこゝもとにみなされつつ」とあるが、「行き来定めぬ夕べの雲」を見て、どのように思えたというのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **13**。

- ① 定めなくさまよう夕べの雲が、ここでは見所あるように思えたということ。
- ② 定めなくさまよう夕べの雲が、自分の近くにやってきたように思えたということ。
- ③ 定めなくさまよう夕べの雲が、自分のことのように思えたということ。
- ④ 定めなくさまよう夕べの雲が、ここにもあそこにもあるように思えたということ。
- ⑤ 定めなくさまよう夕べの雲が、檜原を行き来しているように思えたということ。

問六 空欄 **B** に入れるのに最適な語を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **14**。

- ① されども
- ② いはんや
- ③ くはへて
- ④ いふなれば
- ⑤ それはそれ

問七 傍線部5「騒がしかりつる」の文法的説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① 「騒がしかり」は動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
- ② 「騒がしかり」は形容詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。
- ③ 「騒がし」は形容詞の連体形、「かり」は助詞、「つる」は助動詞の已然形。
- ④ 「騒がし」は動詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
- ⑤ 「騒がし」は形容詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。

問八 傍線部6「北野の天神」は京都の北野天満宮のことであるが、この神社の祭神は文章博士となり、後に学問の神として崇敬されるようになった人物である。その人物はだれか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 藤原定家
- ② 柿本人麻呂
- ③ 紫式部
- ④ 松尾芭蕉
- ⑤ 菅原道真

問九 傍線部7「春秋の色おのが山々に分ける心も珍し」とあるが、どのようなことがらについてこのように述べているのか。

最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は17。

- ① 春の山はみずからの意志で花を咲かせ、秋の山はみずからの意志で紅葉する、ということ。
- ② 春に美しくなる山と秋に美しくなる山を分別するのは、それぞれの人の見方による、ということ。
- ③ 春秋にふさわしい色に染まる山々はその他の山々とは違って珍しい風景になる、ということ。
- ④ 花が美しく咲く山には桜の木がなく、色濃く染まる岡という名を持つ山には紅葉する木しかない、ということ。
- ⑤ 春にしか上れない山では花しか見ることができず、さまざまに染まるという岡には秋にしか上れない、ということ。

問十 傍線部8「やぶしわかぬ春の光」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

18。

- ① どこが藪かが分からないであろう春の光。
- ② どれほどまばらに射すか分からないような春の光。
- ③ ふりそそぐことをいつ止めるのか分からない春の光。
- ④ どのような草藪にも分け隔てなくふりそそぐ春の光。
- ⑤ 人を傷つけてしまうことを知らない春の光。

問十一 傍線部9「ほどなく聞こゆ」とあるが、何がかは記されていない。前後の関係から何が聞こえてきたと考えられるか、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は19。

- ① 虫の音
- ② 男の騒ぎ声
- ③ 人の足音
- ④ 暁の鐘
- ⑤ 小売りの声

### 三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私たちは他者を心ある存在とみなして、心を読もうとし、それによって他者の言動を意味づける。たとえ正しく心を読めなくても、他者が自分と同じように心を持っていると考え、その心の中を共感的に知ろうとすることは、互いに協力しあえる関係を築く基盤となる。このことは、裏を返せば、共感的に知ることを拒否し、また、他者の心が自分たちと同じようなものであることを認めないことが、排他的・非協力的な関係を生むということだ。集団間葛藤や排斥の研究は、他集団に属する人たちの心が「人としての心」の持つべき特性を欠いていると認知することの、関係破壊的な影響を議論してきた。他者を人としての十全な心を持つ存在として認知しないことは、他者を非人間化し、その結果として、人としてしかるべく取り扱わないという問題と結びついているのである。心を読むことと他者とながらることの、いわばダークサイドについても考察するためには、他者を自分たちと同じような心を持たない存在としてみなすことの影響を論ずる必要があるだろう。

「人を心ある存在としてみなすとはどういうことか」という問いは、人の心というものが、どのような特性を持つと理解されているかにかかわる。人の心を持つべき条件とは何なのかについて、私たちは通俗的な知識を持っており、他者に対して、それを備えているとか、欠いているとか認知するのである。では、私たちの持つ、人の心の条件の理解とはどのようなものだろうか。

この問いに答えるには、ハズラムらの研究を見るのがよいだろう。彼らの研究は、私たちが「人の心」を認知する際に着目する次元について、その特徴を人と動物、また人とモノとの対比の中から議論したものだ。彼らによると、人の心を認知する次元には、大きく分けて、高次の認知や洗練された感情、言語能力、自己統制や判断、責任ある行動をつかさどる能力にかかわるものと、温かい、いわゆる血の通った情緒、また、喜びや苦痛に対する感受性にかかわるものがある。前者は、主に、動物との対比により定義されるもので、動物にはない理性的・道徳的行動、問題解決、複雑なコミュニケーションを可能にする心の機能をさす。一方、後者はモノとの対比により定義されるもので、心が生み出す感覚や感情などの主観的経験の有無にかかわる。これらの側面を備えている存在であると認知することが、他者を「A」を持つ存在として認知することなのである。

したがって、これらのいずれかが欠けているとみなされることは、人を動物、またはモノ化することにつながるし、動物やモノにたとえて他者を認知するということは、これらが欠けた存在とみなしているということになる。

他者を動物やモノに近づけてみることは、すなわち「非人間化」は、他集団に対する排斥的、侮蔑的な態度や行動の背後にある認知的な要因である。人種間の対立、移民へのネガティブな態度を集団間葛藤の観点から検討したヤホダ<sup>\*</sup>は、対立集団を、豚、サル、ネズミなどの動物にたとえることがしばしば見られることを指摘している。また、ナスバウム<sup>\*</sup>は、女性が一段劣った存在として扱われている状況を、(男性の)道具として所有の対象となることや自律性の否定、他と交換可能な存在とみなされることなどで特徴づけ、女性がモノ化していると指摘している。このような動物化、モノ化は、他集団に属する人たちに、極めて望ましくない特性を付与するとともに、人として尊重される対象から排除することで、その集団への不当な扱いや攻撃を正当化し、自らには優越感を与えたいという機能を持つ。

動物化、モノ化により、他者を人としてしかるべく取り扱わないということは、他者を道徳的配慮の対象から排除することでもあり得る。通常、私たちは、社会が定めた道徳的価値やルールにのっとって他者と相互作用を持つ。他者に対して公正であろうとするし、他者に悲しみや苦痛を与えるようなことをしてはいけないと考えている。

**B**、その人の主体性、悲しみや苦痛を感じる心を否定するならば、そのような配慮を持つて接する必要がなくなる。たとえ他者を攻撃し、被害を与えたとしても、動物やモノに等しい劣った存在だからかまわない、というわけだ。

**C**、他者の苦痛を共感的に理解することは自分にとっても苦痛なことだが、そのようなことも経験しなくてすむ。これは、他者を不当に扱った際に通常なら機能する、道徳的な自己制裁機能が働かなくなるということでもある。

**D**、人としての心を認知しないことで、私たちが形成している道徳的なコミュニティから他者を排除することが可能になり、無関心から大量殺戮<sup>3</sup>に至るまで、様々な不当な扱いが生じるのである。

他者も自分と同じように心を持つと考えることは、本来、当たり前のことのはずだ。しかし、対立する集団や自分よりも劣っていると見なしている集団のメンバーに対して、動物化、モノ化することを通して、「人として持つべき心の条件」が欠けている



と認知することもまた、私たちの心の中に当たり前のよう<sup>4</sup>に出来上がる認知なのだ。そのことにより、他者への攻撃や誹謗<sup>ひぼう</sup>、排斥が正当化される。他者に十全な心の存在を認めなかったとき、他者とのつながり方は、個を、そして特定の集団全体を、残酷に破壊することも可能なものにしてしまう。心を読むこと（この場合は適切に読まないこと）が生み出す、他者との負のつながり方をそこに見ることができよう。（ア）

私たちが他者とつながるためには、他者が何者かを理解する必要があり、その理解の本質は、他者の心を読むことにある。このことを前提として、心を読むための方略やその際に生じるバイアス、心を共感的に理解することや、人としての心を他者に認める意味を議論してきた。本章を締めくくるにあたって、改めて、なぜ私たちは他者に心があると思うのか、その意味を考えたい。

私たちは、他者とつながり、生きるために必要なものを、他者との関係の中で交換している。それは、単に物質的なことからの交換だけではなく、何かをしてあげるといったことや、情報、気持ちの交換も含まれる。私たちが得るものや失うものが、他者との関係の中で決まり、他者の言動に依存する。したがって、他者の言動を予測し適切に反応すること、また自分にとって望ましくなるよう統制を試みることは、大げさに言えば、私たちの生存にかかわることなのだ。だから、私たちは他者の心を読むとうとする。心が他者の言動を生み出す源泉であるという枠組みのもと、言動がなぜ生まれるのかを知ろうとする。他者を、意図を達成するためにふるまう合理的なエージェントとして、また、安定した態度や特性を表現する言動を行う一貫性のあるエージェントとして認知することで、理解や予測、統制が可能とすることができるのである。（イ）

また、それに加えて、他者に心を読めることは、共感的理解に基づく関係を築いたり、他者を正当に扱い、害や苦痛を与えることのないよう、E なコミュニティの中におくために、必要とされることでもある。このことは、先に述べた予測や統制の必要に関する議論とは異なり、私個人がそのことですぐさま利益を得るとい<sup>4</sup>う性質のものではない。しかし、私たちは、多数の他者と共に、相互作用を長期にわたって繰り返しながら社会の中で生きていく。したがって、社会全体の安全やアンネイを保つためには、互いが他者に対して支援を提供する一方、加害を避けることが重要になる。一人一人が、他者の喜びや苦痛を

理解し、それを踏まえたふるまいをすることで、全体の安心、安全という利益が達成できる。さらに、他者の心にある意図や動機を読み、その善悪を評価したうえで、称賛や非難を与え合うことにより、他者に対する善い意図や動機が促進される一方、悪い意図や動機が抑制されることになる。これは、社会全体が道徳的秩序のもとに存続する基盤となる。(ウ)

進化心理学的な議論は、自分に利益をもたらす人や、不利益をもたらす人を同定するためには、周囲にいる他者の動機や意図、特性など、心的な属性を理解することが必要であり、そのような能力を獲得した個体のほうが生存に有利であるということを主張する。敵や裏切り者を認知できれば、その場から逃げたり、近づくにしても注意を払ったり、食料など生存に必要なものをその他者から隠したりすることで、対応ができる。また同様に、他者の意図や動機を、善い・悪い、正当・不当などの次元から直感的にとらえて、その評価に基づきすばやく対応できる個体が多数いる集団は、そうでない集団よりも、秩序ある社会を維持することができ、存続しやすくなる。もちろん、私たちが進化の過程で心を読む志向性を獲得したかどうかについては、直接その歴史を検証できない。その意味では、このような議論は壮大な「物語」<sup>5</sup>に過ぎないのかもしれない。とはいえ、現代に生きる私たちが、他者の心を日常的に読むこともまた事実であり、社会的な動物としての人間が、生きるための必然として心を読む志向性を獲得したと考えること自体が、私と他者をつなぐ力を持ち得るのではないだろうか。(エ)

私たちの心は、自分だけしか知りえないという意味で、個に閉じたものだ。しかし、その心はまた、他者の心を読むための機能を持つものとして、私たちに備わっている。その機能ゆえに、私と他者はつながれ、閉じた個から他者へ、さらには社会へと広がっていく。他者を理解し意味づけること、共感的理解に基づく関係や秩序ある社会集団を維持することは、他者の心を読むことの上に成り立っている。(オ)

(唐沢かおり「心はいかに自己と他者をつなぐのか」による)

\*ハズラム II オーストラリアの心理学者。

\*ヤホダ II イギリスの心理学者。

\*ナスバウム II アメリカの哲学者・倫理学者。

問一 傍線部1「裏を返せば」とあるが、ここでの「裏を返す」の意味として最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は **20**。

- ① 相反する内容の意見を述べる。
- ② 同じ事柄を逆の面から述べる。
- ③ 物事の悪い面について述べる。
- ④ 普通とは異なる意見を述べる。
- ⑤ 一般に周知された事実を述べる。

問二 傍線部2「排他的・非協力的な関係を生む」とあるが、その具体内容として本文中では言及されていないものを次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

- ① 他者を誹謗し、排斥的な態度をとる。
- ② 移民に対して否定的な態度をとる。
- ③ 他者を道徳的な配慮の対象から除外する。
- ④ 他者に自分の価値観に外れたものを強要する。
- ⑤ 女性の尊厳を尊重しない。

問三 空欄 **A** に入る最適な語句を本文中より5字以上7字以内で抜き出せ。解答用紙(その2)を使用。

問四 空欄 B、C、D に入る語句の組み合わせとして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマ

ークせよ。解答欄番号は 22。

- ① B Ⅱしかし C Ⅱまた D Ⅱかくして
- ② B Ⅱそれゆえ C Ⅱたとえば D Ⅱしかし
- ③ B Ⅱだが C Ⅱもちろん D Ⅱただし
- ④ B Ⅱ一方で C Ⅱしかし D Ⅱ要するに
- ⑤ B Ⅱむしろ C Ⅱもつとも D Ⅱこうして

問五 傍線部 3「人として持つべき心の条件」の具体事例に当てはまらないものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は 23。

- ① 自己統制能力
  - ② 言語能力
  - ③ 危険察知能力
  - ④ 理性的・道徳的行動
  - ⑤ 情緒や感受性
- 問六 空欄 E に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。
- ① 利己的
  - ② 進化的
  - ③ 監視的
  - ④ 健康的
  - ⑤ 道徳的

問七 二重傍線部 4「アンネイ」を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。

問八 傍線部 5「物語」のここでの意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 科学的に実証不可能な誤った論。
- ② 史実を無視した陳腐な作り話。
- ③ 推定に基づく仮説的な試論。
- ④ 文学としてのみ価値を持つ話。
- ⑤ 人に誤解を与える内容を含んだ記述。

問九 次の一文は、本文中の(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)のいずれかの箇所に入るものである。この一文が入る最適な箇所を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

私の心が他者の心を読み、他者の心が私の心を読むことにより、私たちそれぞれは、個であることを超えて、社会という、人と人とのつながりの中に組み込まれていくのだ。

- ① (ア)                      ② (イ)                      ③ (ウ)                      ④ (エ)                      ⑤ (オ)

問十 本文の内容に合致しないものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

① 互いに支援し合い加害を避けることよって、社会全体が道徳的秩序のもとで安定的に機能する。

② 他者や他集団を人として持つべき心の条件が欠けた存在とみなすことは、私たちの心の中に当たり前のようになり得る認知である。

③ 他者の心を読むことは、共感的理解に基づく関係や秩序ある社会集団を維持するために必要なことである。

④ 他者の心を読む能力を獲得した個体のほうがそうでない個体よりも生存に有利であるという主張は、進化心理学的な立場からは疑問視されている。

⑤ 他者や他集団を動物やモノに喩えて認知することは、他者や他集団への不当な扱いを正当化することにつながる。





